

『決断 運命を変えた3.11母子避難』上映会 ドキュメンタリー映画

あきこ & 森松明希子 『決断』出演者 原発賠償関西訴訟原告団代表 トークライブ



森松親子像 小林憲明画「ダキシメルオモイ」から
「母親の証言活動を、子どもたちがどう捉えているかわからないですが、私が何を大切に考えているかは理解してくれているかな。次の世代が私たち大人の背中を見て、暮らしを守るには、自分の手にある権利を手放してはならないんだと気づいてもらえれば」
森松明希子



デザイン出口聡子 協力小張佐恵子

12・14

映画とトークライブ 原発避難者の苦悩と闘い

フクシマ事故14年 原発避難者たちは 何を経験してきたのか

2011年3月11日、東日本大震災 福島原発事故により人生最大の「決断」を迫られたある10家族の証言
原発問題と命懸けで闘った元福島県知事・佐藤栄佐久のドキュメンタリー映画『「知事抹殺」の真実』の安孫子 亘監督が7年の歳月をかけて完成させた渾身の記録。



三重県初上映決定!

予告編はこちらから



被災地から逃げて、安らぎを得た人は一人もいなかった。
私は2017年から7年間、自主避難者たちの声を聴いてきた。たかが7年間である。本人たちは3.11からひと時も「避難者」の肩書を外すことは出来ない。いつ晴れ晴れとした日を迎えられるのか。そしていつ、すべての被災者に「心の救済」が行われるのか。ただいたずらに年月が過ぎ、世の中の関心が薄れだした今だからこそ、自主避難者たちのこの声を世界中に届けなければいけない時なのである。この映画がすべての自主避難者たちのチカラになれる事を切望しています。」
(監督 安孫子 亘)

2024年12月14日(土)

アスト津・アストホール

津駅隣接、徒歩1分、津市羽所町700 / 059-222-2525
映画とトークライブ (各回30分前開場)

①	映画	10:00~11:30	トークライブ	11:40~12:30
②	映画	13:30~15:00	トークライブ	15:10~16:00

一般 / 前売・予約800円、当日1000円
全席自由 高校生以下 / 前売・予約・当日共500円
 原発避難者 / 無料

問合・予約 090-5008-4532 (柴原)

予約受付は右の QR コードからフォームに登録するか電話で。電話予約の際は「お名前、市町名、人数、午前か午後か」をお知らせください。



託児あり 無料 詳細は10月14日までにご相談ください。
TEL090-9661-0371(村山)

主催 原発おことわり三重の会
協力団体 フォトジャーナリズム展三重、いせ映画を観る会、311と歩む会



監督：安孫子 亘さんのプロフィール

映画監督、北海道出身。放送番組制作に関わり、日本テレビ「太古の森の物語」ギャラクシー賞選奨など多数受賞作品に参加。1999年ドキュメンタリー映画の製作に入る。

2011 東日本大震災以降に拠点を福島県に移し、映画「檜枝岐歌舞伎 やるべえや」(2011) 山形国際映画祭コミュニティシネマ賞受賞。

会津のマタギ(猟師)を描いた「春よこい」(2015)、「『知事抹殺』の真実」(2016)で日本映画復興奨励賞、江古田映画祭グランプリを受賞。

廃校宣言から蘇った「奇跡の小学校の物語」(2019)は、現代の永遠のテーマとして全国で上映が続いている。

福島県の只見線の復活を描いた「霧幻鉄道」(2021)が第一回 KOJIMA 映画祭にて倉敷市長賞(最高賞)を受賞。

◆スタッフ◆ 監督：安孫子 亘 撮影：安孫子 亘 プロデューサー：ナオミ 編集協力：池内誠
 音声：小俣大治 音楽：DAIJI 主題曲：DAIJI ポスター画：やまなかももこ 宣伝美術：内海紗耶華
 翻訳：シング麻美 制作デスク：塩谷奈津紀・クレアリー寛子 【2024 日本 HD カラー 90分】



日本の憲法には『全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ平和のうちに生存する権利を有する』と書かれていますが、政府は市民を守る施策をほとんど行わず、避難者の帰還政策ばかりに注力しています。子どもたちを被曝から守ることに力を貸してください。

国連人権理事会での森松さんの発言



森松明希子さんプロフィール

2011年3月11日、福島県郡山市在住中に東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故に被災。0歳と3歳の2児を連れて同年5月に大阪府へ国内避難(母子避難)。原発賠償関西訴訟原告団代表・原発被害者訴訟原告団全国連絡会共同代表を務める。

また、東日本大震災避難者の会 Thanks & Dream (サンドリ)を主宰、国内外で講演を続け、原発事故被害者の人権について訴え続けている。「放射線被曝から免れ健康を享受する権利」は人の命と健康に関わる普遍的で全ての人に等しく与えられるべき基本的人権だと主張し、当該裁判を人権救済裁判、「個人の尊厳」の回復を目的とする憲法訴訟と位置付け、原子力災害のあらゆる被害に対しての恒久的救済を求める。

3.11 以降、社会がどう変わることができるのかを広く一般の人々に問う活動に奔走している。

2018年3月19日、スイス・ジュネーブの国連人権理事会にてスピーチ、帰国後、同年7月11日は、参議院東日本大震災復興特別委員会に参考人として招聘され、被災当事者として陳述を行う。

2019年、「黒田裕子賞」受賞。

著書に『母子避難、心の奇跡 家族で訴訟を決意するまで』(かもがわ出版 2014)『災害からの命の守り方 私が避難できたわけ』(文芸社 2021)などがある。

関連書籍

三重のローカル誌「NAGI(風)」
 季刊、税込720円
 2020年夏の81号から現在まで、福島原発事故による被曝を避けて三重県に避難移住した人びとを描くルポ(取材・執筆は当会の柴原洋一)を連載中(98号は24年9月1日、99号は12月1日に発行)。
 ●バックナンバー注文
 書店か月兎舎(0596-35-0556)



ブックレット「わたしたちは見ている 原発事故の落とし前のつけ方を」
 市民が育てる「チェルノブイリ法日本版」の会 編

新曜社、税込700円
 日本には実効ある原発事故被害者救済法が必要だ。チェルノブイリ現地にある法律にならって「避難の権利」「安全に暮らす権利」を具体的に保障する人権法の制定を訴える書。
 条例案全文掲載。表紙絵は趣旨に賛同する漫画家ちばてつやさん。
 小出裕章さん、わかかなさん、柴原もも子さん寄稿。
 ●注文 書店か新曜社またはネット書店へ。



関連イベント 『3.15さよなら原発三重パレード2025』
 2025年3月15日(土) 三重県総合文化センター
 守田敏也講演&小林憲明作「ダキシメルオモイ」絵画展&脱原発パレード
 問合せ：090-7912-7434(若原)